

## サポートセンター活性化の取組について

## 【取組の背景】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、当センターにおいても様々な利用制限の解除を行ったが、利用状況を見るとコロナ禍以前の状況には戻っていない。※下表を参照のこと

## サロン利用者数(月平均)

単位:人

コロナ禍以前	感染症対策期	コロナ5類移行後
H30年度月平均	R4年度月平均	R5年7月平均
13,477人	684人	1,398人
100%	5.1%	10.4%

これは県内の他のボランティア支援施設においても同様であり、コロナ禍を経て、一堂に会して会議を行うことが敬遠されるなど、変容した県民の行動様式によるところが大きいと考えられる。

そのため、当センターのボランティアサロンについて、どのようなことが利用者の減少に繋がっているのか、また、どのようなことが利用者から求められているのかをアンケート調査と分析を行い、その結果に基づいた運用を検討していく必要があるのではないかと考えられる。

なお、新規の利用者・団体を開拓するため、当センターの登録団体や県内各大学のボランティアサークルに対してはアンケートを実施するとともにサポートセンター協議会への参画について勧誘を行い、県民活動サポートセンターの活性化につなげる工夫も考えられる。

## 1. ボランティアサロン等利用ニーズ調査部会(仮称)の立ち上げ/アンケートの実施について

- ・県民活動サポートセンターの活性化を狙い戦略的に営業を行うと同時に利用ニーズのアンケート調査を行う。

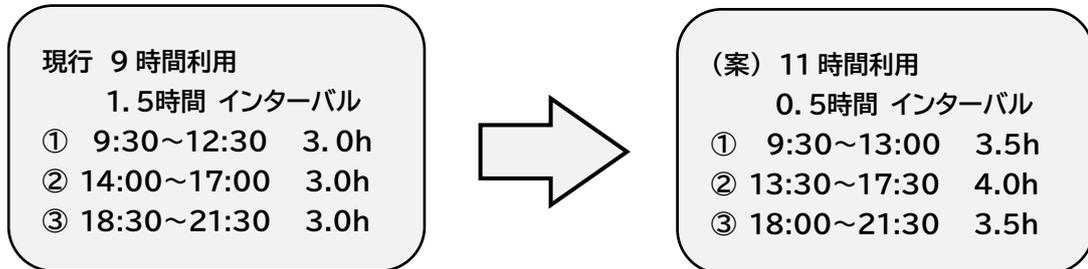
第2回協議会で「調査部会」を立ち上げる。

- ・ボランティア団体登録している事務局、県内各大学のボランティアサークルへの訪問・調査などをボランティア活動サポート課にて実施する。

協議会委員は、調査を行うにあたっての設問の設定を行うとともに、各々の持つネットワーク知り合い等できる範囲での調査依頼を行う。

## 2. 当面のボランティアサロン等運用の見直しについて

- ・当面の運用改善は、1.5時間のインターバルを0.5時間に短縮して活用できる時間を増やすことにより利便性を高める。



※インターバルは、予約制システムを導入したことにより利用者側で空き状況が事前に確認でき、計画的に利用できるなどのメリットもあるため当面は残すこととする。

- ・今後は、(1) ボランティアサロン等利用ニーズ調査部会の立ち上げ/アンケートの実施の結果を踏まえ、コマ割りの撤廃、もしくは新たな運用を考えることとする。

## 3. イベントの進め方について

### [ 新春交流会について ]

- ・新春交流会については、令和5年第1回協議会で利用条件等を確認の上で9月の協議会までに会長、副会長が判断することとなっていた。
- ・しかしながら、現時点の当センターの利用者の状況を鑑みると、交流会を実施したとしても、参加者が集まらないことが想定され、目的である“利用団体の交流促進とネットワークづくり”にはつながらないと考えられる。
- ・そこで一旦、1月に実施する新春交流会の実施は見送り、(1) ボランティアサロン等利用ニーズ調査部会の立ち上げ/アンケートの実施のとおり、調査と勧誘を行い、参画する団体増加の目途が立てば、令和5年度末に実施する方向で検討を進める。

### [ 年末大掃除(1年間お疲れ様会)について ]

- ・年末大掃除(1年間お疲れ様会)については、例年、年末に実施しているが、本協議会委員及び当センターの利用団体の繁忙期に当たるため、新春にこだわらず、今後、日程を調整し実施する。上記の新春交流会との共催も視野に入れる。